

## 野幌中学校 学校評価全体計画

### 1. 目的

- 1) 本校の重点教育目標具現化の取組や重点指導内容、教育活動等について、組織的・計画的に改善を図る。
- 2) 学校評価の実施、結果公表・共有による家庭や地域との連携協力を図った学校づくりを進める。

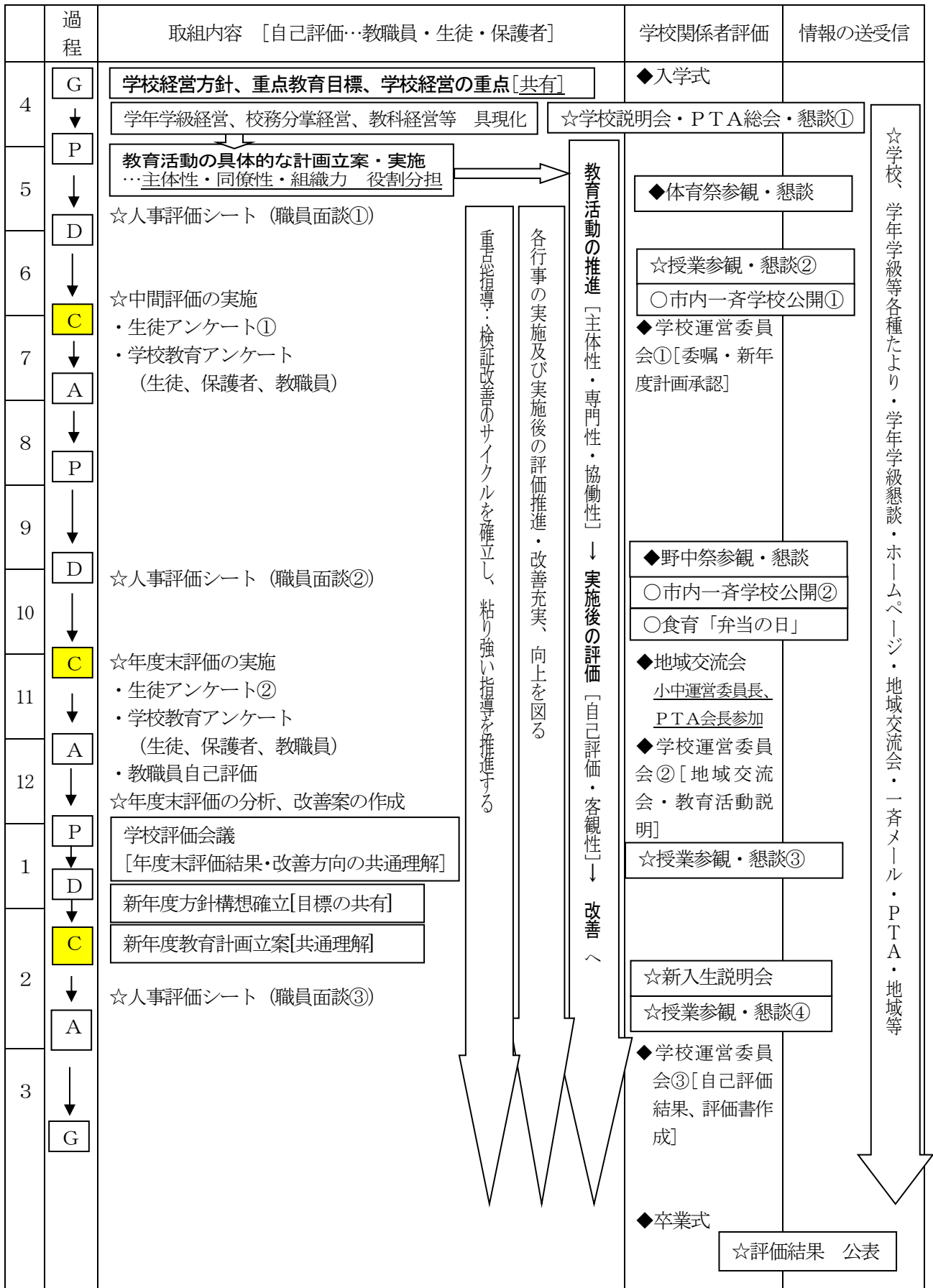
### 2. 基本的な考え方

- 1) 学校改善につなげる。(G-PDCAサイクルの確立・定着)
- 2) 成果と課題を明らかにし、改善の方向性や方策の共通理解を図る。(協働促進)
- 3) 客観的な評価を行う。(数値化)
- 4) 説明責任・結果責任を果たす。(計画・実行・検証・改善更新)

### 3. 評価内容、評価方法

	名称・評価者	評価内容	時期	担当
自己評価	学校教育アンケート (生徒) (保護者) (教職員)	生徒、保護者、教職員の3者で、質問項目を揃えて実施する。3者の意識の相違、意識の変遷を見取り、学校改善に役立てる。 結果については、7月、12月の学校だよりで公表する。	7月、12月	教頭 校長 各学年
	行事 (教職員、必要に応じて生徒)	全校にかかわる行事や旅行的行事等について、実施後1週間をめぐりに回収し、次回職員会議に集約と改善点・方向性を提示する。	行事ごと	各分掌 各学年 担当
	いじめ実態等、生徒指導関連実態調査(生徒)	「いじめ」や「インターネットトラブル」等の実態把握に努め、問題行動等の未然防止、早期解消、再発防止に努める。	いじめ: 6、10月 適宜	指導 各学年
	標準学力検査(NRT)や 全国学力・学習状況調査、 全国体力・運動能力運動習慣等調査、 英検IBA等	客観的データを基に定着度や課題等の分析を行い、改善の方向性を示す。	6月、9月 11月	研究 各学年 各教科
	学校職員人事評価シート (教職員)	学習指導や生徒指導、いじめの対応、保健指導、校務分掌、学校事務等に関する個々の目標や方策、実現状況や課題を自己評価し、改善方策を検討する。	5月、10月、 2月	校長 教頭
	教職員自己評価 (教職員)	重点教育目標や学校運営・教育活動全般にわたって総括的に検証し、改善の方向性を示す。	11月(年末 評価)	教頭
	生徒アンケート(生徒)	生徒の生活実態の把握、授業における意識の把握を目的として実施する。実態把握をもとに、授業改善等に役立てる。項目等については研究部で検討し、年2回実施する。集計については研究部で行うが、記述の部分については、教頭が行う。	6月、11月	研究部 教頭
外部評価	学校運営委員会 (学校関係者評価)	目標の達成状況や取組状況、適切さなどについて評価してもらい、その結果から教育活動の改善点を探る。	2月	教頭 教育課程 検討委員会

4. 年間の評価活動の流れ (目標⇒計画⇒実践⇒検証⇒改善)



☆学校経営について情報発信・受信  
○市内一斉行事 ◆学校運営委員会